

図書館だより

9月 図書館カレンダー

| | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
| | | | | | | 1 |
| 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 |
| 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 |
| 30 | | | | | | |

○印 休館日
月曜日・祝日(15・23日)
月末館内整理日(28日)

抱き起す萩と吹かるる野分かな
碧梧桐
稲作のつらい労働が終わり秋の実りを期待する時期であり、草木を吹き分ける風(台風)の被害を警戒する時期でもあります。

今月の新刊図書案内

- 一般図書
 - ペイパーバック・ライフ常盤新平 寂聴観音経 瀬戸内寂聴
 - 巡礼 高野山 (とんぼの本) 深川江戸散歩 (とんぼの本) ラストエンペラー夫人・婉容
 - 大地震そのときどうするか
 - こんな子がいじめる、こんな子がいじめられる 託摩武俊
 - 思春期の子を持つ親の本 俵萌子
 - 田辺聖子の味三味 講談社
 - フィールドウォッチング 北隆館
 - よみがえった古代の色 金子 晋
 - 今昔物語(古典の旅) 安西篤子
 - 深層心理なるほど講座 南 博
 - 幻想としての文明 栗本慎一郎
 - 娘と私 黒柳 朝
 - 歴史の仕掛人たち 童門冬二

小説・黄金バット 加太こうじ
村の名前 辻原 登
桜田門外ノ変 吉村 昭
港が見える丘 川西 蘭
大江戸指名手配 藤沢周平他
女王卑弥呼 三枝和子
やさしく殺して 胡桃沢耕史
泥棒に手を出すな 赤川次郎
湘南薔薇屋敷 南黒征典
古今東西・男は辛い 青木雨彦
カロライナの殺人者

デイヴィッド・スタウト
楽園の日々
アーサー・C・クラーク
継母礼讃 バルガス・リヨサ
ALL WAYS 開高 健
外一五九冊



点字図書・声の図書コーナーからのお知らせ

図書館では、視覚障害者の皆さまに書物に親しんでいただくために点字図書・声の図書(カセットテープ)コーナーを設けて、資料の郵送貸し出しサービスを行っていますのでご利用ください。

◇新着図書・テープ

▽点字図書
ぼくらゆきんこ

中国漢方の歴史 ツボの全て
人間・気象・病氣
危険だらけの血圧常識
女性の不定愁訴症候群
女性の自律神経失調症
健康歳時記
フォークソングアルバム
酒飲みの医学
点字ジャーナル創作文芸小説入選作品集
のぶちゃん日記

▽声の図書

ミラボー橋の下をセーヌが流れ
アルファ分析によるストレス解消の音楽 ①・②
かぎりなくやさしい花々
世界名作童話ファンタジー 全二十五巻
中学英語でこんなペラペラ
リハビリテーション
自律神経失調症の謎
今昔物語と医療と呪術
初級英会話講座 第一集
ワンポイントサイエンス 1~5
三姉妹探偵団 (一)・(二)
芥川隆行が語る

○新選組始末記

○一本刀土俵入
○はなれ替女おりん
○杏掛時次郎
○姿三四郎
ハラスのいた日々 (一)・(二)
向田邦子エッセイシリーズ
○たべものばなし
○遠い旅・近い旅
○ねこ自慢

子どもの心シリーズ 15

思春期

広く認められている事として、性格というものは、生まれつきもっているもの―素質―をもとにして、人間関係、特に幼児期・児童期には家を中心にした、母、父、兄弟などによってつくられるものとされています。

幼児期や児童期につくられる性格は、外からの働きかけによって本人が自覚しないでつくられるものだと言います。つくられる性格ということですが。たとえば、余りにもおしゃべりのお母さんの子におしゃべりの子がいたり、おしゃべりのお母さんでいつも子どもの発言を封じてばかりいると、無口な子になったりします。このような例は、環境によって性格がつけられていくと言うことを示しているように思います。

思春期になると、自分の人生の理想像をつくるようになります。自分の性格の欠点に気づき自分の欠点を直そうとするようになります。中学生、高校生の中には、自分の部屋に、「忍耐」とか「勇氣」・「誠実」とかの文字を大きく書いている子がかなりいます。我慢強くない子が「忍耐」と書き、いくじのない子が「勇氣」と書くと言うようになるのです。これは自分

の性格を理想に近づけている、つまり性格を自分で変えようとしているのです。
しかし、性格というものはそう変わるものではありません。そこで演技をすることがあります。例えば、中学生・高校生になっても幼稚な行動をしたり、自分が子供っぽいと気づいたりしますと、大人っぽく振る舞って背のびした行動をする子もいます。

これは思春期の特徴です。つまり、本来の自分とは違った行動を演じてみせているわけです。ある学者は本来の自分とは違った性格が用意されて使われるようになったと言っています。このようになるとは好ましくないという人もいますが、そうとばかり言えません。性格は時により相手によってそのだしかたを変えるのが自然です。思春期になって他人の目を見て、相手の心への影響を考えて行動することが可能になったと言っています。

このように思春期は、自分の性格を変えようとしていたり、演技をしたりします。だから、この時期は子どもの性格を見抜くことが非常に難しいと言えます。
一端の悪を演じている子が、実は慎み深く、注意深く、むしろ神経質なくらいで、一人では何もできない子である時もあると言っていることを知って欲しいのです。

教育相談室

(43) 1111 内線216